

別記様式

議 事 録

| | |
|-------------------|---|
| 会議の名称 | 第4回 岩倉市公共施設再配置計画検討委員会 |
| 開催日時 | 平成29年11月7日(火) 13時00分から15時00分まで |
| 開催場所 | 市役所7階 第1委員会室 |
| 出席者 (欠席委員・説明者) | 出席委員：秀島委員長、木本副委員長、大野委員、伊藤委員、渡辺委員、櫻井委員、水越委員、平松委員、増田委員 欠席委員：井上委員 説明者：教育こども未来部長、都市整備課長、学校教育課長、都市整備課営繕グループ長及び係、学校教育課学校教育グループ長及び係 コンサルタント：中央コンサルタンツ |
| 会議の議題 | (1) 施設ごとの再配置方針について (2) 学校施設長寿命化計画について ①学校施設の長寿命化計画の背景・目的等について ②学校施設の実態について ③学校施設の目指すべき姿について |
| 議事録の作成方法 | <input type="checkbox"/> 要点筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他 |
| 記載内容の確認方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他 () |
| 会議に提出された資料の名称 | 資料1 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等 資料2 学校施設の実態 資料3 学校施設の目指すべき姿 別添資料1 学校施設長寿命化計画の策定フローと委員会での検討事項 別添資料2 集会施設一覧表 別添資料3 施設ごとの再配置方針に対する意見 |
| 公開・非公開の別 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 傍聴者数 | 9人 |
| その他の事項 | |

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 開会

教育こども未来部長よりあいさつがされた。

2 議事

(1) 施設ごとの再配置方針について

第3回検討委員会資料7「施設ごとの再配置方針について」を基に事務局より説明。

委員長：PFIはいつ検討するのか。モデルケースで検討するのか。

事務局：本委員会でPFIの導入の有無を決定する予定はなく、モデルケースを通じてPFIのあり方を検討したいと考えている。

委員長：希望の家について、協議会で多数の意見をもらっているが、事務局としてはどのように考えているか。

事務局：稼働率が低いため、現状のままでは維持が困難であると考えている。

委員：希望の家について、夏と秋の季節や土日など、保育園のお泊り会をはじめとした利用ニーズは多いが、子ども会やNPOなどの利用が優先され、利用できない市民も少なくないと聞いている。稼働率が低い理由は、一度に一組しか利用できないことが稼働率の低い一因であると考えられる。

委員長：指定管理者に工夫してもらってはどうか。

事務局：子ども会は夏休み（盆を除く）と土日の利用が多い上に、泊まれる部屋は2階の2室に限られているため、一般の利用者が少ないことは事実である。また、他自治体の事例とは異なり、バンガロー等がある訳ではなく、宿泊としての用途に特化した施設である。そのため、他の機能を付加するなど、一日を通して利用できるような施設にする必要があると考えている。

委員長：医療施設の維持費は、一般財源または収益のどちらにより賄われているか。

事務局：市の単独費用から支出している。

委員長：収益施設の維持費、ソフト面から言えば、受益者負担の考え方にに基づき、その施設の収益から賄えると理想的であると考えられる。

事務局：これまでにそのような事例はないと想定されるが、ごくわずかな利用者に対し、利用していない市民が負担している実情を勘案し、今後の改善点を検討していく必要があると考えられる。

委員長：希望の家についても同じ考え方が当てはまると考えられる。

(2) 学校施設長寿命化計画について

① 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等について

資料1「学校施設の長寿命化計画の背景・目的等」を基に事務局より説明

委員：長寿命化計画を策定するということは、施設を減らさないという認識になるのか。

事務局：長寿命化によって更新時期の平準化を図りつつ、その間に施設を減らすことも考えていく。

委員長：本委員会において、施設毎に長寿命化にするか廃止にするかを決定するのか。

事務局：施設毎の取り組みを決定することは困難であるため、本委員会では全体の方

針を決める程度と考えている。

委員：学校施設は1施設あたりの規模が大きく、公共施設等総合管理計画の縮減目標の達成のためには廃止が不可欠であると考えられるが、廃止できるかどうか定められなければ、他の公共施設の方針も定めることは困難である。規模が大きい施設から、個別に再配置の取り組みを定めるべきであると考えられる。

事務局：抽象的な結果になるかもしれないが、本計画では施設を減らすことばかりを考えるのではなく、PFI等のソフト面においても経費を縮減する方策を考えていきたい。また、縮減目標の達成の件については、数字ばかりに捉われるのではなく、その時代の財政状況や社会情勢等に応じて、5年ごとに検証しながら、方針を改善していくことが重要であると考えている。

委員長：学校施設についても、その他の公共施設と同様に、施設類型の基本方針として定めていけると良い。

委員：廃校をレストランとして用途転用した事例があるように、余剰スペースを商業施設や文化施設として貸し出すなど、既存施設の有効活用を図りながら、多目的に利用できると良い。希望の家も廃止することは簡単であるが、まずは有効利用を検討すべきであると考えられる。

委員長：公共施設の有効活用の事例について、法律的な制限などと合わせ整理できると良い。

事務局：南小と東小に学童保育を複合化したように、市民団体がいつでも使えるような工夫・区分けを行い、学校が地域コミュニティの核となるような取り組みが必要であると考えられる。例えば、学習等共同利用施設についても、計画期間の40年という長い目で見れば、学校への複合化も十分有り得ると考えられる。

委員長：学校の一般開放は行っていないのか。

事務局：現状では、体育館のスポーツ少年団への開放、図書館の放課後子供教室としての利用（全小学校、土曜日の午前）、PTAの懇談会としての利用などはあるが、一般への開放は困難な状況である。

委員：学校を地域コミュニティの核として整備する案は素晴らしいと考えるが、学校のキャパシティ次第である。今後、学校を拡張する計画はあるか。

事務局：具体的に拡張する計画はない。児童数がピーク時の半分であり、学級数も縮小傾向である現状を鑑みると、拡張は難しいと考えられる。また、現在、市民利用型施設のうち、ダンス、太鼓、陶芸、ホールなどについては、利用者が多い一方キャパシティが少ないことから、そういった機能を学校に付加できれば良いと考えられる。

委員：複合化はほとんどの人が理想と考えていることであるが、複合化するのであれば、責任問題、地域との合意形成の観点から、セキュリティ確保のルール

作りは必須であると考えられる。

委員：昨年度のモデルケースのように、東小学校と仙奈保育園およびあゆみの家を複合化した場合、学童保育を含めると4機能の複合施設となる。現状では、学童を迎えに行くためには、裏の駐車場からプール横の細道を通る必要があり、非常に不便を感じている。また、学校のトイレの方が近いにも関わらず、体育館のトイレを使用することで、雨天時に路面が濡れる箇所を歩行する必要があり、転倒による怪我の危険性もある。実際、五条川小学校では、学童保育の複合化について反対意見が多いと聞いている。そのような状況から、ポプラの家のように複合化によるメリットは多くあると考えられるが、帰宅時間や駐車場の確保など、配慮しなければならない事項が増えると想定される。

委員長：本長寿命化計画では、公共施設等総合管理計画の個別施設計画ということで、学校施設の固有名詞を掲載していく予定か。現状での課題や問題を掲載しないともったいないと考えられる。

事務局：固有名詞を掲載しなくても、学校施設としては個別施設計画に位置付けられると考えており、歩行者導線等の詳細な内容は、本計画に記載する必要はないと考えている。

② 学校施設の実態について、③学校施設の目指すべき姿について

資料2「学校施設の実態」、資料3「学校施設の目指すべき姿」を基に事務局より説明

委員：学校の健全度について、評価点が60点未満の施設が多く見られるが、義務教育の施設の大半で安全性が懸念される状態では、児童の親が不満を言うのではないか。また、耐震性は問題ないのか。

事務局：学校の健全度と耐震性能は直接的には関係ない。また、耐震工事は今年度の曾野小学校で最後であり、全ての学校施設で耐震性能は確保されている。

副委員長：セキュリティ確保を前提とした上で、学校施設の複合化には賛成であるが、現状または長寿命化を図った状態で複合化しても機能的に問題が生じるのではないか。また、長寿命化を図ったとしても80年目で更新することを考えると、建て替えた方が経済的ではないか。

事務局：5校を3校に統合することを考えなければ、現状の財政力で全ての施設を建て替えるのは困難であり、今はC評価というぎりぎりの状態で存続せざるを得ない状況である。大規模改修と更新のどちらが経済的であるかは、現状で明確な答えはないが、少なくとも5年毎に順番に建て替えるといったことはできない。

委員：長寿命化計画が、ただの先送りの計画になるのであれば意味がない計画となる。それよりは、登校時間等の問題はあがるが、統廃合を視野に入れた建設的な議論をする方が、よっぽど現実的であると考えられる。

事務局：全ての施設を一律に先延ばしする訳ではなく、地域毎の実情によってそれぞれの方針が異なると考えている。建て替えも視野に入れながら、減築や複合化といった方策を検討していきたい。

委員：人口増加に向けて、人口政策も市町村レベルで別途検討するなど、本計画が前向きな計画になることが望ましい。

委員：昭和のピーク時は多くの学級を作ったが、現状では小中一貫校化、空き教室の有効利用、民間プールの活用および学校グラウンドのキャンプ利用など、施設の有効活用と施設総量の縮減に向けた事例が増えつつある。このように、時代の流れや財政状況にもよるが、1つの施設を大事に使っていくことも重要であると考えている。また、希望の家については、施設単体の点としての議論から、まちづくりという面的な議論に繋げてほしい。

委員長：学校施設の目指すべき姿にこれまでの内容を反映させつつ、市に人を呼び込めるような学校にしてほしいと考えている。